

農業農村支援センター

令和7年度

農業農村支援センター

1 概 況

管内の農業は、標高 760m から 1,200m に至る地域で営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜では、セルリー、ブロッコリー、キャベツ等が産地化され、なかでもセルリーは、全国トップの生産量を有している。花きでは、カーネーション、キクを中心に多品目が栽培されており、近年はアルストロメリアが増加傾向となっている。

また、近年は醸造用ぶどうの栽培が増加しており、令和 5 年 3 月には当地区がワイン特区として認定された。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

一方、諏訪湖周辺地域では、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

（1）耕地面積

耕地面積は 5,891ha で、田は 3,293ha、畑 2,599ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 120a で県平均 116a を上回っている。

市町村名	耕地面積(ha)	田(ha)	畑(ha)	農家一戸当たり 耕地面積(a)
岡 谷 市	207	73	134	46
諏 訪 市	608	400	208	72
茅 野 市	2,320	1,340	980	116
下諏訪町	56	29	27	45
富士見町	1,570	894	675	170
原 村	1,130	557	575	200
合 計	5,891	3,293	2,599	120
県	103,800	50,700	53,100	116

注）資料：農林水産省耕地面積調査（令和 7 年 2 月 28 日現在）

①原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

②一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 2020 年農業センサスによる。

(2) 農家戸数、農業従事者数、基幹的農業従事者等

管内の農家戸数は 4,905 戸で前回センサスの 84.1%であり、販売農家戸数は 2,074 戸で同 75.2%、自給的農家戸数は 2,831 戸で同 92.2%となっている。

農業従事者数は 5,286 人で前回センサスの 70.0%、基幹的農業従事者は 2,790 人で、同じく前回センサスの 70.0%であり、いずれも全県値より減少幅が大きくなっている。

市町村名	農 家 戸 数			農業従事者数 (人)	基幹的農業 従事者 (人)
	総農家数 (戸)	販売農家 (戸)	自給的 農 家 (戸)		
岡 谷 市	448 (512)	65 (79)	383 (433)	158 (215)	96 (116)
諏 訪 市	846 (982)	319 (403)	527 (579)	797 (1,054)	412 (553)
茅 野 市	1,999 (2,452)	825 (1,158)	1,174 (1,294)	2,099 (3,196)	1,050 (1,599)
下諏訪町	124 (147)	15 (21)	109 (126)	46 (56)	25 (33)
富士見町	922 (1,070)	450 (598)	472 (472)	1,127 (1,593)	557 (819)
原 村	566 (667)	400 (500)	166 (167)	1,059 (1,452)	650 (864)
合 計	4,905 (5,830)	2,074 (2,759)	2,831 (3,071)	5,286 (7,566)	2,790 (3,984)
対前回比 (%)	84.1	75.2	92.2	70.0	70.0
県	89,786 (104,759)	40,510 (51,777)	49,276 (52,982)	102,706 (137,207)	55,516 (73,467)
対前回比 (%)	85.7	78.2	93.0	74.9	75.6

注) 資料：2020 年農業センサス

①販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家

②自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満でかつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家

③農業従事者数：15 歳以上の世帯員のうち、調査期日前 1 年間に自営農業に従事した者

④基幹的農業従事者：15 歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として自営農業に従事している者

⑤対前回比：2015 年農業センサスとの比較。（ ）は 2015 年農業センサス数値

(3) 令和6年の気象と農業生産状況

平均気温は、6月中旬から11月にかけて平年を上回り、降水量や日照時間は平年より多い、又は少ない時期があり変動が大きかった。

春先の凍霜害では、野菜苗など若干の被害がみられたが、大きな被害は発生しなかった。

水稻は全域で、カメムシの発生が多かったものの、南信地域の作況指数は100で、1等米比率は92.3%となった。

野菜類は、セルリーで疫病、萎縮炭疽病やハモグリバエ類の発生が、ブロッコリーでは6月から9月にかけての高温、多湿による黒すす病が、収量に影響した。

花き類では、10月までの高温により生育遅延や、アザミウマ類やうどんこ病といった病虫害により、品質低下や収量に影響した。

一方でアルストロメリアは生産振興を図り、出荷量が増加した。

(4) 農業等産出額（R4）

農畜産物の産出額は122億円であり、野菜が55億円、花きが26億円となっており、野菜、花きを合わせると算出額の7割弱を占める。

水産業の産出額は4億円であり、近年、諏訪湖における漁獲量が減少していることから大部分を寒天が占めている。

(単位：千万円、%)

種 類		農業等産出額	
			構成比
農畜産物	米	266	21.0
	麦・大豆・雑穀	6	0.5
	果樹	33	2.6
	野菜	551	43.6
	花き	264	20.9
	きのこ	10	0.8
	畜産	84	6.6
	養蚕・その他	7	0.6
	計	1,221	96.6
水 産 業		43	3.4
合 計		1,264	100.0

注) 産出額は、県農業産出額に基づく地域振興局推計値

(5) 新規就農者の確保育成状況

県、市町村、JA等で構成する「諏訪地区就農支援連絡会」が中心になり、就農相談、就農計画の作成支援、就農後のフォローアップを実施している。令和6年度の管内の新規就農者数（49歳未満）は5名（野菜2名、花き1名、水稻1名、畜産1名）であった。

また、円滑な就農を支援するため、新規就農里親支援事業を実施している。

最近の新規就農の状況（49歳未満）

（単位：人／年間）

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 （計画）
人 数	13	8	4	12	5	9

注：R4年度までは45歳未満の人数

新規就農里親農業者登録事業・里親活動支援事業の状況

（単位：人）

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
里親登録者数	32	29	26	25	26	24
里親研修者数	6	3	4	4	4	3

注：各年度4月1日現在の人数